

平成26年度 九州・沖縄ブロック 地域相談支援フォーラム研修会 in長崎

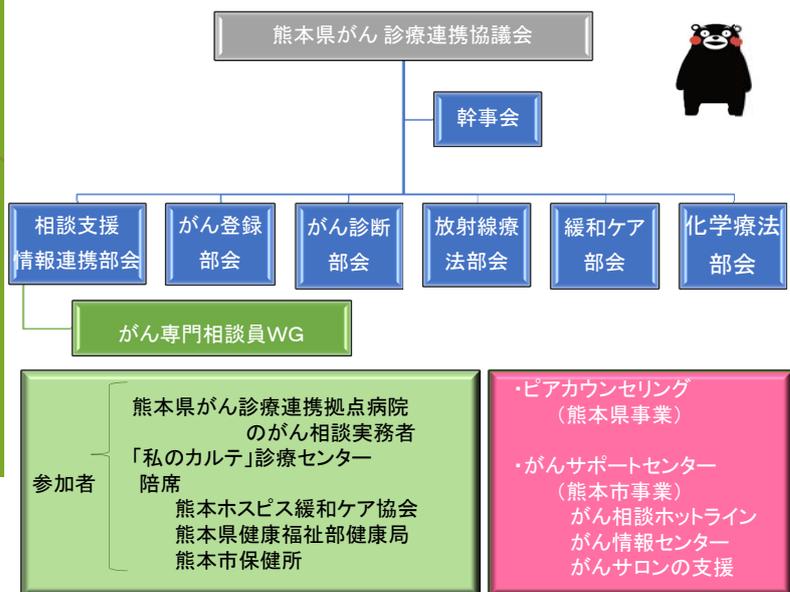
— 熊本県のがん相談支援の取り組み —

高見 萌枝(済生会熊本病院)
片山 佳代(熊本市民病院)
宮本 ゆかり(荒尾市民病院)

熊本県のがん拠点病院とがん診療連携組織図



- 熊本県がん診療連携拠点病院
- 地域がん診療連携拠点病院(7カ所)
- 県指定がん診療連携拠点病院(11カ所)



熊本県のがん専門相談員WGの取り組み

がん相談支援センターの抱える悩みの共有
相談員の質の向上を目指す

継続的な研修の機会が必要

平成24年3月 がん専門相談員WGの発足

- ・相談員の定期的な集まりの場の設定: 1回/3ヶ月開催
 - ・行政との連携: 熊本県及び相談支援部会の協力を依頼
- 〈 活動内容 〉
- 相談員のレベルの維持・質の向上(相談支援の均てん化)
 - 相談員の育成
 - ネットワークの構築(顔の見える連携)
 - がん患者のニーズの多様化・QOL向上への対応

平成26年1月 がん診療連携拠点病院の整備指針
: 相談支援センターの業務内容の明確化

がん相談支援体制の充実による更なる質の向上を図る必要がある

平成26年5月～WGにおいて3グループに分けての取り組み開始

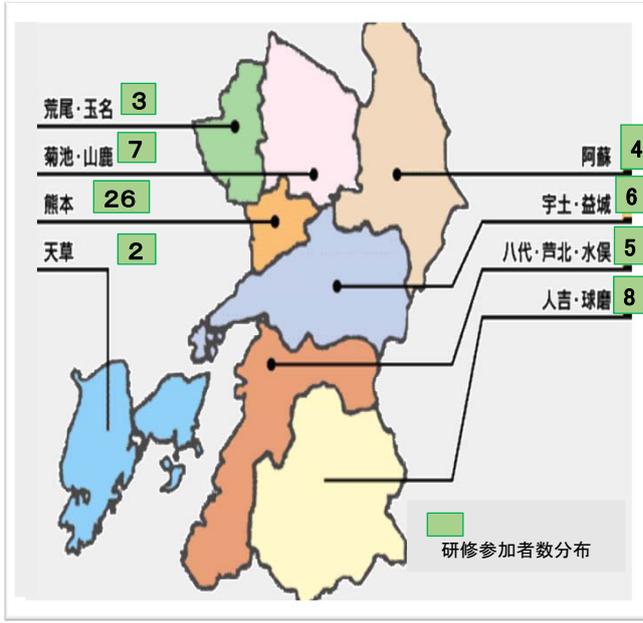
- ・研修企画・運営: 年2回の研修開催・相談員の実態調査
- ・療養ハンドブック作成: 熊本独自の確かながん情報の提供の推進
- ・広報周知: 熊本県内で院内外への広報・周知方法を共有していく

がん相談支援センターの広報活動

現在の取り組み内容	現在の状況と今後の課題
<p>がん相談支援センターの紹介</p> <p>バッジをつける スタッフ教育の機会に紹介 相談支援センターのカードの活用 : 診察室や病棟に配布の促進</p>	<p>➢ がん相談支援センターの周知が院内でもできていない状況であり、がん相談支援センターの役割の明文化 医療者向けの県内共通のポスターの作成</p> <p>➢ 相談件数の評価方法 相談件数のデータ化 → 共通の評価を行い比較・検討していく</p> <p>➢ ちらし・スライドの作製 ・勉強会・研修会に参加し、多職種への働きかけ ・広報誌等への掲載</p>
<p>医師からのアピール</p> <p>がん診療委員会等での紹介・委員長から各診療科への広報 医師から患者・家族へがん相談支援センターのカードを渡してもらう</p>	<p>➢ 定期的な働きかけを継続していく 患者の声を医師・看護師等に伝えていく</p>
<p>がん相談支援センターの存在の周知</p> <p>県内共通のポスターを作成</p>	<p>➢ がん医療ネットワークナビゲーターとの協同にむけての準備 情報収集と提供を行いながら養成にも協力していく 地域でがん相談が受けられる支援体制を構築していく</p>



平成26年度第1回熊本県がん相談研修会の開催



〈対象〉
 ・熊本県内の医療機関においてがん相談に携わる相談員 → 2次医療圏に拡大
〈参加者数〉 61名
〈研修目的〉
 がん相談員の役割を明確にする
 がん患者・家族への相談支援を理解する
 がん相談員同士の交流を深める
〈研修内容〉
 ・がん対策アクションプランを基にしたがん相談支援センターの役割と熊本県内の相談員の現状と課題
 ・がんサバイバーからの視点での相談の現状

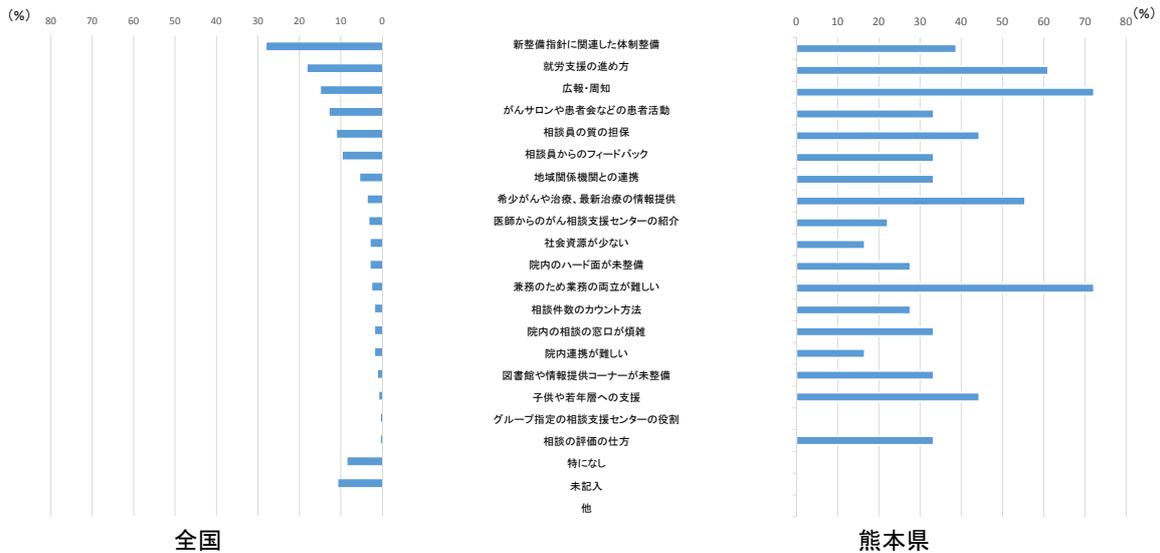
参加者の声

- ・相談員として必要なスキルや態度を学べた
- ・地域がん拠点病院との仲間づくりを行う上でもサポート体制が必要と感じた
- ・がん専門相談員の事を知らなかったので勉強になった
- ・がんサバイバーの話から気づきがあり、相談員としてのスタンスを学べた

アンケート集計

相談支援を行う中で困難に感じていること
 がん拠点病院19施設(複数回答可)

※平成26年10月現在



アンケート結果からみる課題と対策

① がん専門相談員WGの取り組み

広報周知に課題がある

相談員の質の担保に課題がある

継続的に研修を行っているが困難さを感じている現状があり、今後研修内容等の検討がさらに必要
今年度は研修企画運営・療養ハンドブック作成・広報周知の3グループに分かれての活動も取り入れ、さらに相談情報の共有と対応方法の検討に取り組みたい

② 体制整備

兼務のため業務の両立が難しい

相談員の従事形態からすると約半数が兼任状態で業務を行っている。兼務業務としては退院支援が主であるが、病棟・外来・緩和ケアチーム・化学療法室の兼務者もいる

③ 働く世代や小児へのがん相談支援

就労支援の進め方に思案している

希少がんや治験、最新治療の情報提供が不十分である

子供や若年層への支援に困難を感じている

まずは、情報(ニーズ・課題)の集約が必要
国・地方公共団体・医療関係者等が協力して仕事・治療の両立を支援し、抱えている不安の軽減を図ることが必要

おしゃべり相談室

第二次熊本県がん対策推進計画

一環事業として・・・

熊本県健康づくり推進課
と 医療機関 の協同で開始

平成26年度熊本県がん経験者
ピアカウンセリング事業

おしゃべり相談室

平成24年
1月

- がんの患者さんの療養生活の質の維持・向上を図る目的 **おしゃべり相談室**を熊本赤十字病院にて開催
- カウンセリングを学んだがん経験者を2名ずつ派遣し、患者の悩みを傾聴

平成26年
9月

- 国立病院機構熊本医療センター・熊本市市民病院の2カ所の医療機関での開催を追加(計:3カ所)。
- 現在の利用件数:平成24年(11件)・平成25年(31件)・平成26年(36件)

平成26年
11月

- 第1回合同関係者会議開催＝今後の課題＝
周知方法の検討
今後のおしゃべり相談室の運営
ピアサポーターの養成